

一人ひとりの心

(原文)

大塔 香凛 (14 歳)

栃木県

高根沢町立阿久津中学校

私が考える平和な未来は、武器を使った争い事が起きない世界です。私たちは、いつまで経っても過去から学べていないような気がします。なぜなら、いまだに世界のどこかで紛争が起きているからです。

社会の授業で映像をよく見ますが、どこかの国の偉い人同士が満面の笑みで握手を交わして、周りの人もその状況を称えるように拍手をしています。今までの私であれば、素直に素敵なことだと思っていましたが、最近では本当にそうなのかと疑問を感じるようになりました。仲が良さそうにしているでも必ずしも約束事を守るという保障はありません。もし約束を守ってくれているのなら、今のような戦争は起きていないと思います。「本当にお互いをしっかりと理解しましたか」「相手の気持ちになって考えましたか」と確認が必要です。確認できていれば、核を持つ国はないはずだと思います。

私たちの日常でも、言葉足らずや言葉おしめで、意見の食い違いが起き、ささいなことがきっかけで発展するのを身近に感じます。満足しない結果や状況に不満を持った人たちが、本人の前では口に出せないことを裏で陰口したりして、良くない空気になりがちです。このような事をなくすために必要となってくるのが、話し合いだと思います。話し合いを行うことで、相手を理解して同じ方向を向くことができるし、相手の意見を尊重することができます。

また、これからの社会を生きていく上で大切となってくるのは、お互いを助け合うことだと思います。目の前に困った人がいてもなかなか勇気が出なくて手を差し伸べることをためらってしまいます。その人たちは、この後どういう行動をとるでしょうか。答えは、「見て見ぬふり」です。人に無関心だと自分中心に考える人が多くなってしまい、他の人と衝突して、争いが起こってしまうのだと思います。だから、私たちは見て見ぬふりをやめて、しっかりと言葉に出して助け合うべきだと思います。

私は、平和な世界は一人ひとりが協力をしていけば、長い年月をかけずに実現できると思います。お互いの事を自ら知ろうとすれば、自分が抱いていた印象とは真逆だったということがあるかもしれないし、知ったからこそ分かる相手の欠点もあるかもしれません。その人の欠点を理解し受け入れることができれば、人は手を取り合って助けることが自然にできるはずだと思います。

そして、平和な世界になる第一歩として最も大切だと考えているのは、感情に流されないことです。もし、先ほどの国の偉い人同士が握手をした数年後に対立してしまい、感情に流されて簡単に約束を

反故にしてしまったらこの光景を見た子どもたちはどう思うのでしょうか。私は、「約束は守らなくても良いものなんだ」という考えが植え付けられてしまうと思います。このような事を防ぐためにも道徳などといった授業を使って、しっかりと教育を受けるべきだと考えました。どうして私はこのような考えになったのかと振り返ってみると、私たちは道徳で人間性について学びます。ほかの授業も社会の発展には大事だと思うし、数学や理科などを学ぶから武器を作れるほどの知識を得ることもできます。でも、その知識を使う人間に思いやりがあれば、核などを作らず紛争も起きないはずだと思います。そのことを学ぶのが道徳だと思います。平和な世界を作るためにも、道徳の授業でしっかり学ぶ必要があると思います。